

CASE 1

アフガニスタンへの  
食料援助を行っている

ペシャワール会

医療活動支援、  
そして水源確保活動へ



現地支援活動中の中村哲さん。  
困難な状況の中でも医療活動は現地スタッフ  
によって継続されている。井戸も、掘り続けな  
ければ枯れる。



2000円でアフガニスタンの1家族(10名)  
を1ヵ月支えることができる。



WFP(世界食糧計画)の活動が本格  
化するまでPMSの食料支援は続く。

1983年。始まりは、パキスタン北  
西辺境州・アフガニスタン東部山岳地帯  
の医療活動が続ける中村哲さんへの支  
援活動だった。中村さんは、この地で誰  
からも振り向かれずにいたハンセン病  
患者へ手を差し伸べることから医療活  
動を始めている。以来18年、設立した1  
つの病院と10の診療所で年間20万人に  
のぼる患者の診療を行っていた。そし  
て2000年夏、「20世紀最悪」といわれる干ばつ  
に見舞われたアフガニスタンのために新しい活動  
を始める。被害のひどいアフガン東部で井戸を掘  
ること。これまでに660本の井戸を掘り、さらに

「ペシャワール会」を考えた  
中村哲氏(「ペシャワール会」現地代表)



11月現在。この状況を受けて会では「い  
のちの基金」を設立、新たな難民を作ら  
ないために食料援助活動を始めた。とり  
あえず50万人の人々を救うためには、3  
億円の資金がいる。



ペシャワール会  
事務局長  
村上優さん

1000本の井戸の確保を目指して準備をしてい  
た矢先に、同時多発テロ事件が起きた。  
アフガニスタンへの食料支援  
中村さんによれば、アフガニスタンはアメリカの  
報復攻撃によって、「鬼気迫る」状況になっている。日々  
の食料が絶対的に足りない。  
国連の支援活動団体も国内に  
入ることができない。外国の  
団体では唯一、長い実績を認め  
られたペシャワール会(PMS)  
だけが活動できる状態だ。つま  
りアフガニスタンの  
人々への支援は、ペシャ  
ワール会を通じなけ  
れば難しい状態なの  
である(2001年

いかなるテロにも  
軍事報復にも反対

ペシャワール会のホームページには「私たちはい  
かなるテロにも、報復の軍事行動にも反対します」  
というメッセージが書き込まれている。テロと軍  
事行動が生むのは、新たな犠牲者と憎しみだけだ。  
事務局長の村上優さんは言う。「多くの方々には真  
実を知っていただきたい。アメリカ側からの報道  
ではなく、アフガニスタンの事情、現状にも耳を傾  
けてほしい。今世紀最大といわれた昨年夏からの  
干ばつも、日本ではほとんど報道されませんでした。  
現在の報復の軍事行動で死ぬのは、飢餓線上にあ  
る多くの農民と貧しい人々、女性と子  
供なのです」。福岡市内の小さなマン  
ションの二室で、ペシャワール会のボラン  
ティアの方々は無眠不休で活動している。  
冬になればアフガニスタンは猛烈な寒  
波に襲われる。

DATA

●ペシャワール会  
〒810-0041  
福岡市中央区大名1-10-25  
上村第二ビル307号  
TEL 092-731-2372  
FAX 092-731-2373  
ホームページアドレス  
http://www.1m.mesh.ne.jp/~peshawar/

●「いのちの基金」振込先  
郵便振替口座番号  
01790-7-6559  
加入者名 ペシャワール会

★通信欄に「いのちの基金」と  
お書きください